

新刊書評

「宇宙と生命の起源

—ビッグバンから人類誕生まで—

嶺重 慎, 小久保英一郎 編著 岩波書店

2004年7月刊行 全254頁 定価820円+税 ISBN4-00-500477-6

田中秀和¹

わたしたちはいったいどこからきたのか、宇宙はどのようにして始まり今日ようになったのか、宇宙、銀河、恒星、惑星、生命の誕生の謎に迫る。ビッグバンから人類へいたる、美しく壮大な 137億年の宇宙と生命の起源の物語を第一線の研究者11人が、最新情報から熱く語る(裏表紙紹介文より)。

ご存じの方も多いかもしれないが、理論天文学懇談会シンポジウム(通称、理論懇シンポジウム)という研究会が毎年開催されている。一昨年度の理論懇シンポジウムは「起源—ビッグバンから人類へ」というテーマで開かれたのであるが、その各講演の内容を岩波ジュニア新書の一冊としてまとめたというのが、本書なのである。

しかし、「単なるジュニアもの」と我々研究者が片付けられるしるものでは無いようである。章立てと各章の著者(敬称略)は次のようになっている。

- 1章 宇宙の始まり(横山順一)
- 2章 元素はどこから来たのか(山田章一)
- 3章 宇宙をおおう大規模構造(北山哲)
- 4章 さまざまなタイプの銀河の誕生(梅村雅之)
- 5章 星が生まれる現場(犬塚修一郎)
- 6章 ブラックホールのつくり方(嶺重慎)
- 7章 太陽系の誕生(小久保英一郎)
- 8章 水惑星・地球へ(阿部豊)
- 9章 生命の起源(小林憲正)
- 10章 人類までの道のり(瀬戸口烈司)
- 11章 生命・物理現象と多様性(吉川研一)

紹介文にもあったように、ビッグバンから生命の起源までのストーリーが連続的に、最新の成果をも含めて各分野の日本の第一人者達により分かりやすく解説されているのである。

本書前半(1~4, 6章)の内容は惑星科学とは離れているが「最近の宇宙論や銀河形成論はどうなってるの」などという疑問に十分答えてくれるものである。ジュニアだけでなく我々にも丁度いい内容になっているのでないだろうか。

後半は、惑星科学会員の我々に比較的身近な内容である。ジュニア向けにエッセンスを抜き出した書き方になっているのだが、それにより内容はよく整理されており、私自身とても勉強になった。ジュニア向けとってしまうのには勿体ないと思うのは、私だけではないであろう。学部学生や我々研究者も大いに楽しめる一冊として、お勧めできる本なのである。

ここで気が付いたが、先号遊星人の書評で紹介された「私たちは暗黒宇宙から生まれた ALMAが解き明かす宇宙の全貌」(福井康男編)も、内容や各章の著者こそは違うが、「宇宙誕生から生命の起源まで」という流れは同じだ。最近の天文業界の流行を表しているのではと思うのだがどうだろう。

1. 北海道大学低温科学研究所